**第２学年○組　　道徳指導案**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　場　所

　　　　　　　　　　　　　　　　　　指導者

**１　主題名**　よりよい自分への第一歩 【内容項目 Ｄ－（22）よりよく生きる喜び】

**２　資　料**「銀色のシャープペンシル」（文部省　道徳教育推進指導資料　指導の手引き３）

**３　主題設定の理由**

本学級の生徒は、男女問わず仲が良く、授業や行事といった学校生活に向けて明るい雰囲気を作り出し、楽しみながら取り組むことができる。また、生徒会スローガンでもある「一生懸命はかっこいい～がむしゃらに進む、君こそ英雄だ～」を日々追い求めて生活をしている。１０月に行われた合唱コンクールでは、最優秀賞をとるためにリーダーを中心に一生懸命取り組むことができたが、最優秀賞は取ることができなかった。生活記録には、「他のクラスより、日々の練習が足りなかったり、一週間の気持ちの追い込みが足りていなかったりしたから、さらにクラスへの呼びかけをして日々の生活を改善していきたい」とよりよい自分やクラスを目指していることがわかる。一方で、合唱練習の中で、少しでも練習をして上手くなりたいと思えない一部の男子生徒もいた。日々の生活の中でも、自分の中で一生懸命やっているからこれぐらいでいいという意識の生徒もいる。２年生になり、学校生活のサイクルも２回目となり、慣れが生じていることもあり、自分の成長や限界に挑戦する喜びを感じずにいるのではないかと考えた。

本資料では、拾った銀色のシャープペンシルをポケットに入れてしまったことから歯車がずれていく物語である。すぐにシャープペンシルを返せなかったり、自分の物だとうそをついてしまったりする行動から、人間の心の弱さを意識させ、主人公であるぼくの生活と自分の生活を重ね合わせて考えさせたい。さらに、嘘をついてしまったのは友達のせいだと腹を立てて、誰とも口をきかない状況も捉えさせ、自分の弱さ・醜さに向き合わないぼくを押さえさせる。主人公ぼくが大きく変容するのは、卓也の一本の電話である。卓也の素直な謝罪により、「このままの自分ではダメだ」という気持ちが強くなり、変わろうとしていく心情に迫らせる。ぼくがなぜ変わることができたかを追究していくことで、「よりよい自分になるため」にはどうすればいいかという本題に入っていく。物語を通して、自分の生活や生き方に置き換え、誰もがうそをついてしまったり、だましてしまったりする弱さや醜さをもっているが、そんな自分を克服していきたいという思いを持たせられると考え、本主題を設定した。

　本時は、資料を使って場面発問を中心とする展開前段と「よりよい自分になるためには」というテーマ発問を展開後段に分けて展開する。展開前段では、資料の分岐点であるぼくの心が変わるきっかけとなった卓也の電話の場面を取り上げ、弱い自分や醜い自分をどのように克服していったのかを考えさせる。そして、自分自身の生活に戻しよりよい自分になるためには、今の自分に足りないことに結びつけ考えさせる。

２年生の２学期は、行事や学校生活が２回目となり慣れが生じ、現状に満足しがちである。しかし、部活動では最上級生となって、数ヶ月後には３年生になり学校を引っ張っていく立場になる。今の姿に満足せず、よりよい自分になり今後の生活に生かしていくことを期待している。

**４　本時の指導**

（１）ねらい

　　自らの弱さや醜さを克服する強さを持ち、よりよい自分になろうとする気持ちを高める。

（２）準　備

教師　資料、ワークシート

（３）展　開（５０分）＜キーワード：弱さ・醜さ、よりよい自分、克服する＞

|  |  |
| --- | --- |
| 生徒の活動 | 教師支援・評価（……内） |
| １　うそをついたり、ごまかしたりしてしまった経験とその時の行動を考える。（５分）  ２　資料を読んで、あらすじを確認する。（１３分）  ３ ぼくの気持ちについて考え、話し合う。（１２分）  卓也からの電話を受け、ぼくは何を考えたのだろうか。  ・正直に言えない自分が嫌になってきた。  ・うそをつき続けている自分が恥ずかしい。  ・罪悪感が湧いてきた。  ・黙っていればいい。  ・自分は悪くない。  ・なぜ卓也は謝ってきたのだろうか。分からない。    ・卓也の正直に生きる姿に刺激を受け、批判されるか  もしれないけど、真実を話し、謝りにいきたい。  ・今までのずるい自分を変えたい。    ４　本時で身につけさせたい価値について考え、話し合う。　　　　　　　　　　　　　　　（１５分）  （テーマ発問）  弱さ・醜さを克服するために、大切なことは何だろうか。  ・卓也みたいに素直に生きたいと思うことが大事。  ・私も、主人公のぼくのように嘘をついたり、正直に言えなかったりしたことがあったが、そんな自分が嫌になって、嘘をつくのをやめた。  ・自分の心の中には、弱い心があることを自覚して弱い心に直面したら、立ち止まって自分の行動を考えることが大事。  ５　授業の始めに考えた経験に対して、今の自分ならどうすべきか考える。　　　　　　　　（５分）  自分には弱さや醜さがあるが、それを克服してしっかり生きていきたい。 | ・うそをついたり、ごまかしたりしてしまった経験と行動をワークシートに記入させる。  ・印象深い言葉に線を引くよう指示する。  ・多様な意見を出させるために、隣同士で話す時間を設定する。  ・意見が出せない生徒には、特に注意をして声をかけながら机間巡視を行う。  ・話し合いがさらに深まるように、「卓也の家に歩き出す間に何があったか」という補助発問を入れ、ぼくの変容に着目させる。  ・自分の経験談も考えながら書くことで「よりよい自分になる」ことについて考えが深まるように場を設定する。  ・正義や正直に考えが偏らないように、自分に置き換えて考えさせる。  ・全体の場で多様な意見を出させることで、次の展開につなげていく。  資料の内容をふまえ、弱さや醜さを克服して生活しようと考えることができたか。 |

（４）評　価

　資料での学びを通して、自分の中の弱さや醜さがあることに気づかせ、前向きに生きていこうとする気持ちを高めることができたか。　　　　　　　　　―ワークシートの記入内容より―

**◎本時の視点**

　資料のぼくの言動と自分自身の生活を重ね、本時に身に付けさせたい価値について考えさせたことは、これからの生活に生かそうとする気持ちを高めるのに有効であったか。